

七条中学校だより7月3号

京都市立七条中学校

令和8年7月2日

発行:校長 林 秀雄

徳を積むとは2 見えないところで自分を磨くということ

6月20号では、鎌田選手や大谷選手の行動を通して、「次の人のために」という心の大切さについてお伝えしました。誰かのために行動することは、社会の中で生きていく上でとても大切な姿勢です。今回は、その続きとして、「徳を積むことは、自分自身を静かに磨く行為である」ということについて考えてみたいと思います。

「徳を積む」という言葉を聞くと、多くの人は「良い行いをすること」を思い浮かべるかもしれませんが。しかし、その本質はもう少し深いところにあります。徳は、人に見られているときだけに育つものではありません。むしろ、誰も見ていないときにどのような行動を選ぶかという、自分自身との向き合い方の中に育まれていくものです。

例えば、誰も見ていなくても落ちているごみを拾うこと、使った道具をきちんと元の場所に戻すこと、誰にも褒められなくても自分からあいさつをすること。こうした行動は周りの人のためであると同時に、自分の心を整えるための大切な習慣でもあります。大谷翔平選手がごみを拾うことを「運を拾う」と表現した背景には、周囲への思いやりだけでなく、自分自身の心を常に整えておくという意味も含まれているように思います。

徳を積む行動は、一見すると他者のための行動に見えます。しかし、それを続けていくことで得られるものは決して小さくありません。心が落ち着き、自分を大切にすることができるようになります。また、周囲から信頼されるようになり、物事に対する姿勢や行動にぶれがなくなっていくます。つまり、徳を積むことは自分の人格を静かに磨く作業なのです。誰かに評価されるためでも、褒められるためでもありません。「自分はどのような人でありたいのか」という問いに向き合い、その答えを日々の行動で示していくことが、徳を育てることにつながります。

七条中学校には、徳を積む機会が毎日の生活の中にたくさんあります。気持ちのよいあいさつを交わすこと、教室や廊下を整えること、使った道具を次の人のためにきちんと戻すこと、困っている友達に声をかけること、履物をきれいに揃えること。どれも決して目立つ行動ではありません。しかし、このような「静かな行動」を積み重ねる人は、必ず周囲から信頼される存在になります。そして、その信頼は皆さんが将来社会に出たとき、大きな力となって自分を支えてくれるはずですよ。

徳は目に見えるものではありません。しかし、日々の行動の中で確実に自分の中へ積み重なっていきます。丁寧な行動が自然にできるようになったり、周りの人の気持ちを考えられるようになったり、自分の感情に振り回されにくくなったりします。そして、人から安心して任せてもらえる存在へと成長していきます。そのすべては、今日の小さな一歩から始まるのです。

前回お伝えした「次の人のために」という心は、実は自分自身を成長させる力にもなっています。徳を積むとは、誰かのために行動しながら、自分自身を育てることです。

今日、皆さんが選ぶ小さな行動が、未来の皆さんをつくります。七条中学校が、目立たなくても温かく、静かな徳の積み重ねにあふれた学校であり続けることを願っています。そんな一人ひとりの歩みが、より良い学校、より良い社会をつくる力になると私は信じています。

熱中症に注意

これから気温が高くなり、熱中症の危険が増えてきます。熱中症は誰にでも起こる身近な症状です。「まだ大丈夫」と我慢せず、こまめに水分補給を行いましょ。また、十分な睡眠と朝食をとることも予防につながります。登下校中や運動時は帽子の着用も可能です。体調が悪いと感じたら無理をせず、すぐに先生や周りの人に知らせてください。一人ひとりが自分の体を大切に、安全で元気な学校生活を送りましょ。この夏、みなさんが健康に過ごせることを願っています。

放課後の過ごし方について

本日は午後から先生達の研修が行われるため、午後の授業はありません。また、部活動も実施しません。下校後は、まず、家庭学習の課題にしっかりと取り組み、時間を有効に活用してください。

早く下校できる日はうれしいものですが、皆さんは七条中学校の生徒として、地域の方々から見守られている存在です。公共の場所での過ごし方や交通ルールを守るなど、節度ある行動を心掛けましょ。

一人ひとりが安全で有意義な時間を過ごし、明日も元気に笑顔で登校してくれることを願っています。自分自身の行動に責任をもち、充実した午後にしてください。